

日本海スルメイカ漁場開発調査

佐藤 晋一・田村 真通・中田 凱久

鈴木 史紀・兜森 良則

発 表 誌 名

イカ釣漁場開発調査資料Ⅷ（昭和58年3月）P.77～91，昭和57年度日本海スルメイカ漁場開発調査結果

抄 録

1. 6～11月，東奥丸，青鵬丸を使用し，本県および北海道沖の日本海で一本釣によるスルメイカ漁場調査を実施した。
調査データが多く得られたのは7月の本県沿岸域である。以下，7月の本県沿岸域のスルメイカの分布の特徴について述べる。
2. スルメイカの分布密度の高い所は水温分布状況に照らして見ると表面水温20℃，50 m層で14℃位の対馬暖流と沖合冷水との潮境域であった。
3. 距岸60マイルを境にして沖合と沿岸に分けて外套長を比較して見ると沖合では外套長モード24 cmであったが，沿岸では外套長モード19 cmと沖合より数cm程小型であった。
4. 7月に沖合では雄の完熟個体が19％，半熟個体が38％，雌では半熟個体が22％程含まれていた。また，7月の沿岸でも成熟の進んだ個体がかかなり見られ，沿岸，沖合にかけて夏生まれ群の混獲が顕著であった。